

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人松友会	代表者	池田 佳子	法人・事業所の特徴	・当法人は、入所系サービス（特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム）、居宅系サービス（居宅介護支援、通所介護、短期入所生活介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護）を展開しており、市内東部エリアを担当する地域包括支援センターを構えている。また、移送サービスや地域のコミュニティスペースを実施し、地域の高齢者を包括的に支援できるよう体制を整えている。 ・さくら草小規模多機能型居宅介護はグループホームを併設し、環境の変化による混乱を予防できる入所の運びを備えており、認知症高齢者が安心して利用できる体制。
事業所名	ピースフルライフ さくら草	管理者	林 恭平		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	4 人	0 人	0 人	1 人	0 人	2 人	1 人	10 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① ご利用者の身体機能の維持向上に関する運動やリハビリの研修などに参加し、ご利用者に提供できるようにする。基本的な介護の知識についての内部・外部研修への参加について、事業所・法人で研修体制を構築していく。	介護の基本的知識に関する研修は、スタッフ会議などを通して内部研修として実施できた。運動やリハビリなどに関しては、インターネットの動画などを活用し実施しているが、スタッフの外部研修参加までには至らなかった。	・日常業務に追われご利用者の入れ替わりが多い中、一人一人に目を向け事故なく良いサービスを提供しようとしているのがよくわかる。 ・改善は見られているので、内部研修・外部研修の参加が増えると良いと思う。	介護予防や高齢者のリハビリテーションなどに関する外部研修に参加し、参加した職員が他のスタッフにフィードバックすることで、事業所全体のスキルアップを図り、ご利用者の介護予防に取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節に合わせた室内の装飾や、イベントの様子などが分かる写真等の掲示を継続し、ご利用者及び外部から来られた方が落ち着いた雰囲気を感じられる環境整備を行う。	屋内外を含め事業所の清潔感、感染症対策を意識した日常の清掃、消毒、空調機器の等メンテナンスなどを実施し、継続している。季節感を味わえる飾りつけを、担当スタッフを中心に行っている。	・見学した時には整備もされており、季節に沿った掲示物があり、清潔感がある居心地の良さを感じました。 ・敷地内に人影があまり見えなかったり窓が少なく光や自然を目にする機会が少なく感じた。	事業所内の見た目だけでなく、ご利用者・スタッフの感染予防、疾病予防を念頭に置き、消毒、メンテナンス方法などを周知し、業務内で実施することをシステム化する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域での活動および地域資源となるサービスや活動などに、介護スタッフが自ら参加し、体験して理解する機会を作る。 ① まずはスタッフが地域ケア会議、ミニサロン、オレンジカフェなどの高齢者を対象とした地域資源に参加すること、ボランティアポイントの再開に伴いボランティアの受け入	ご利用者、スタッフのあじさいクラブ（原之宿ミニサロン）に参加を再開し継続することができた。市のボランティアポイント制度による定期的なボランティアの受け入れも行うことができた。南部包括の地域ケア会議には管理者が参加しているが、他の自治会や包括支援センターが実施する地域住民向けの活動や、オレン	・自治会の盆踊りやあじさいクラブには積極的に参加しており、さくら草の認知度も上がっていると思います。 ・原之宿地域の自治会やミニサロン・民生委員との繋がり是十分だと思います。南部地域まで幅を広げると、お互い顔もわからない人たちが増えるのでここは南部包括に指導力を発揮していただく	あじさいクラブに全職員が年1回は参加する機会を作り、地域でのミニサロン活動の状況を体験する。 さくら草で行える地域住民の皆様と協力できることを検討する。「介護相談」の受付から開始していく。

	れを再開し、地域の関係者やボランティア、民生委員さんと顔が見える関係を作る。	ジカフェなどに参加する機会は作れなかった。	必要があるかと思います。 ・2025 年 1 月に移動販売車サービスが無くなる話を聞きました。施設で行うコンビニ訪問等代替のサービスを検討されますか？	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小規模多機能型居宅介護のサービスは、ニーズに合わせて提供できているが、訪問、他のサービスの利用、地域資源やインフォーマルサービスの把握が出来ていない為、管理者やケアマネから地域資源情報の研修会を行い、スタッフの知識習得をはかる。	地域の盆踊りや防災訓練には参加させていただいた。地域資源やインフォーマルサービスに関する研修は行ったが、実際に足を運んでの見学や、活動の体験・支援を行うまでは至らなかった。	・コロナが5類に移行しても制限を解除するのはリスクも考えると思うし、地域に出向いての活動は減少したと感じる。 ・自分の住んでいる地域にどのような機能を持った高齢者施設があるか？どういう種類があるのか？わからないでいた。会議に出席する度に理解でき始めたところです。	あじさいクラブに全職員が年1回は参加する機会を作り、地域でのミニサロン活動の状況を体験する。 さくら草のご利用者が多い、南部地域・東部地域を中心に、各地域の地域資源を見学・体験させていただく機会を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の実施場所の再検討、定期的に施設内を見学していただける機会を作る。自治会・地域の活動などの情報をもとに、さくら草の地域活動への参加や、地域の方からの相談などを受けられるようにしていく。	さくら草の別棟会議室を利用し運営推進会議を実施。参加されている皆さまにもさくら草を見学していただいた。運営推進会議を通じてミニサロンへの参加やさくら草の運営に関するご意見をいただくことができた。	・スタッフの取り組みや近況報告がわかりやすく良好に運営されていると感じます。 ・「地域の心配事例の検討」に関しては、地域の委員や社協の包括のメンバーになると思う。このアンケートも含め、効果が疑問で趣旨からは不適當ではないか？と感じる。	今後も感染対策を行いながら、さくら草の事業所内で運営推進会議を実施し、会議を通じて地域からの相談などを受け付けられる体制を作っていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	B C P に沿った定期的な訓練の実施と、運営推進会議のメンバーの皆さんにも訓練の様子を見ていただくよう、会議の日程に合わせた訓練の実施を検討する。	定期的な、「火災」「地震」を想定した避難訓練は予定通り実施できた。B C P 訓練も初動や災害後の準備に必要な物などを確認する訓練（研修）が実施できた。	・災害時の退避行動は困難なことは目に見えています。安全で効率的な動きをする為にも訓練をして反省をし良いものにして下さい。 ・地域では個別の家では火災対応も重要です。防火・消火の仕組みを十分設置して下さい。	災害に関する定期的な訓練とともに、福祉避難所としての機能が發揮できるように、市とも連携して福祉避難所の開設訓練を実施していく。

